

## びっす「ニラム

三重県は森林面積が県土の約3分の2を占め、尾鷲ヒノキが日本農業遺産第一号に認定されるなど森林資源に恵まれた地だ。

昔は木といえば住宅や建築物への利用が中心であったが、最近はその用途の多様化が進む。

三重県では、木質バイオマス発電のエネルギー源としての利用が進められてきた。一方、自然の木そのものをレジャー設備として活用するフォレストアドベンチャー・湯の山が菟野町に今春オープンし、人気を集めている。

お隣の奈良県では、内装に吉野ヒノキをふんだんに使ったカプセルホテル「奈良の森ホテル」が外

国人バックパッカーを想定して昨年建設された。ヒノキにはリラックスマ効果があるため快適性の向上だけでなく、地域のブランド木を世界へPRする場になっている。

驚きなのが、木も食べる時代になったこと。静岡理工科大が開発した食用の木パウダーは、整腸効果や花粉症予防にも効果が期待できそうだ。素材としての研究も注目されている。軽くて丈夫で環境に優しいセルロースナノファイバーの自動車や建材などへの実装研究、木から鋼鉄より強い素材を作る研究など新技術の開発も進む。

木のポテンシャルは近年ますます高まっていると感じる。どのアイデアが今後の大黒柱となっていくか目が離せない。